農業高校生が山口型放牧の現場を訪問

山口農林事務所畜産部
平成21年10月20日

10月13日(火)、県立山口農業高等学校生物生産学科動物生産コースの2年生18名と3年生20名が、畜産学実習の一環で山口市秋穂二島の杵崎の里放牧利用組合を訪問しました。

これは、農家における肉用牛の繁殖管理の実際を知るとともに、全国的に有名な山口型放牧と呼ばれる、繁殖雌牛を使った耕作放棄地への放牧技術のノウハウを学習することを目的に行われたものです。

まず始めに、野外で7月に分娩した母牛とその子牛に触りながら、組合の方から省力的な管理方法の説明を受けました。

また、場所を移して、繁殖雌牛7頭が群れで放牧されている放牧地では、電気牧柵で仕切られた放牧地の中に入って牛が草を食べる様子を観察しました。

生徒たちは、山口型放牧が簡単な装置でできることや、飼養管理が省力的だけでなく、地域の景観保全やふれあいにもメリットがあることを体感しました。

母牛と子牛に触る学生

牛が草を食べる様子を観察